令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立馬込東中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第1学年は、基礎・基本の定着に力を入れている。特に、正負の数や文字式の計算では、計算のきまりを考えたり、問題演習を繰り返したりすることを通して、学習内容の定着を図った。
- ・第2学年は、基礎・基本の充実に力を入れており、生徒一人一人が安心して学習に取り組めるよう努めてきた。今後も計算問題だけでなく図形領域の学習内容の充実に図る。
- ・第3学年は、基礎・基本が充実し、すべての領域で目標値をこえることができた。基礎・基本の学習内容を大切にしながら、今後も学習内容の充実に図る。

(2) 課題

- ・1学年は、平均や場合の数を求めることに課題がみられた。文章読解や表の読み取りに関する学習活動を十分に確保するとともに、生徒一人一人の問題の考え方、捉え方の充実に図る。
- ・2学年は、平面図形の問題に苦手意識があるとみられる。作図や扇形の面積の学習において、少人数指導を活かし、生徒一人一人が安心して学習に取り組む時間を確保したい。
- ・3学年は、式の計算や証明の問題に苦手意識があるとみられる。少人数指導を活かし、習熟度に合わせた指導に取り組み、生徒一人一人が考え表現する活動の充実に図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	校内平均正答率は目標値を10.4ポイント、区の平均値を7.0ポイント上回っている。	/	/
第2学年	校内平均正答率は目標値を11.6ポイント、区の平均値を11.6ポイント上回っている。	校内平均正答率は目標値を5.2ポイント、区の平均値を2.7ポイント上回っている。	/
第3学年	校内平均正答率は目標値を9.4ポイント、区の平均値を7.9ポイント上回っている。	校内平均正答率は目標値を4.9ポイント、区の平均値を4.6ポイント上回っている。	校内平均正答率は目標値を5.5ポイント、区の平均値を4.8ポイント上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値を7.4ポイント、区の平均値を6.2ポイント上回った。平均・場合の数の項目が、目標値より4.5ポイント上回っているが他の項目より低い。	区の目標値を15.3ポイント、区の平均値を9.0ポイント上回った。単位量あたりの大きさの項目が、0.4ポイント下回っており、課題が見られる。	教科全体として区や全国平均より上回っている傾向はあるが、小数・分数の計算や割合の問題における無回答率が比較的高い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値を13ポイント、区の平均値を11.2ポイント上回った。継続して、計算練習を行っていく。	区の目標値を8.9ポイント、区の平均値を10.6ポイント上回った。知識・技能を用いた論理的思考力が身につけている。	教科全体として区や全国平均を上回っているが、データの分布の傾向の分野における読み取ったことを説明する間では無回答率は比較的高い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値を9.3ポイント、区の平均値を7.9ポイント上回った。継続して、基礎基本の充実を図る。	区の目標値を8.6ポイント、区の平均値を8.1ポイント上回った。図形の証明や確率に課題が見られた。	教科全体として区平均よりは上回っているが、関数や証明、データ等の活用問題の無回答率が比較的高い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正負の数や文字式の計算といった基礎・基本の計算の定着を図る。授業で計算の仕組みを考えさせたり、単元テストを実施したりすることを通して知識・技能の充実を図る。	問題提示後、問題解決への見通しを立てたり、グループで話し合ったり、問題を振り返って検証したりする学習活動を充実させる。	授業で学習した内容を自分なりに振り返り、自らの学習状況を分析し、生徒自らの主体的な学びを充実させるための課題学習や家庭学習への取り組みを推進する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分数や1次式などの計算を確実にできるように反復練習を行う。また、関数を理解して扱えるように、復習をしながら指導していく。	関数の式が何を表しているのか考えさせ、ICT機器を使い視覚的に理解できるようにする。また、図を描くなどして、視覚的に理解できるような解説を行い、式の作り方を指導していく。	問題を解く際に、解き方を暗記するのではなく、どのように考えて答えまでたどり着けばよいかを考えさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単項式・多項式の計算、連立方程式といった基礎・基本の計算を復習し、計算力の定着と向上を図る。	授業において、生徒が考える場面を設定する。問題を解くときに、先を見て筋道を立てて思考する練習を行い、式の立て方や説明ができるようにしていく。	ICT機器を活用し、視覚的に理解を深める指導を行う。また課題を設定し、自分なりに考え試行錯誤するような時間を設ける。